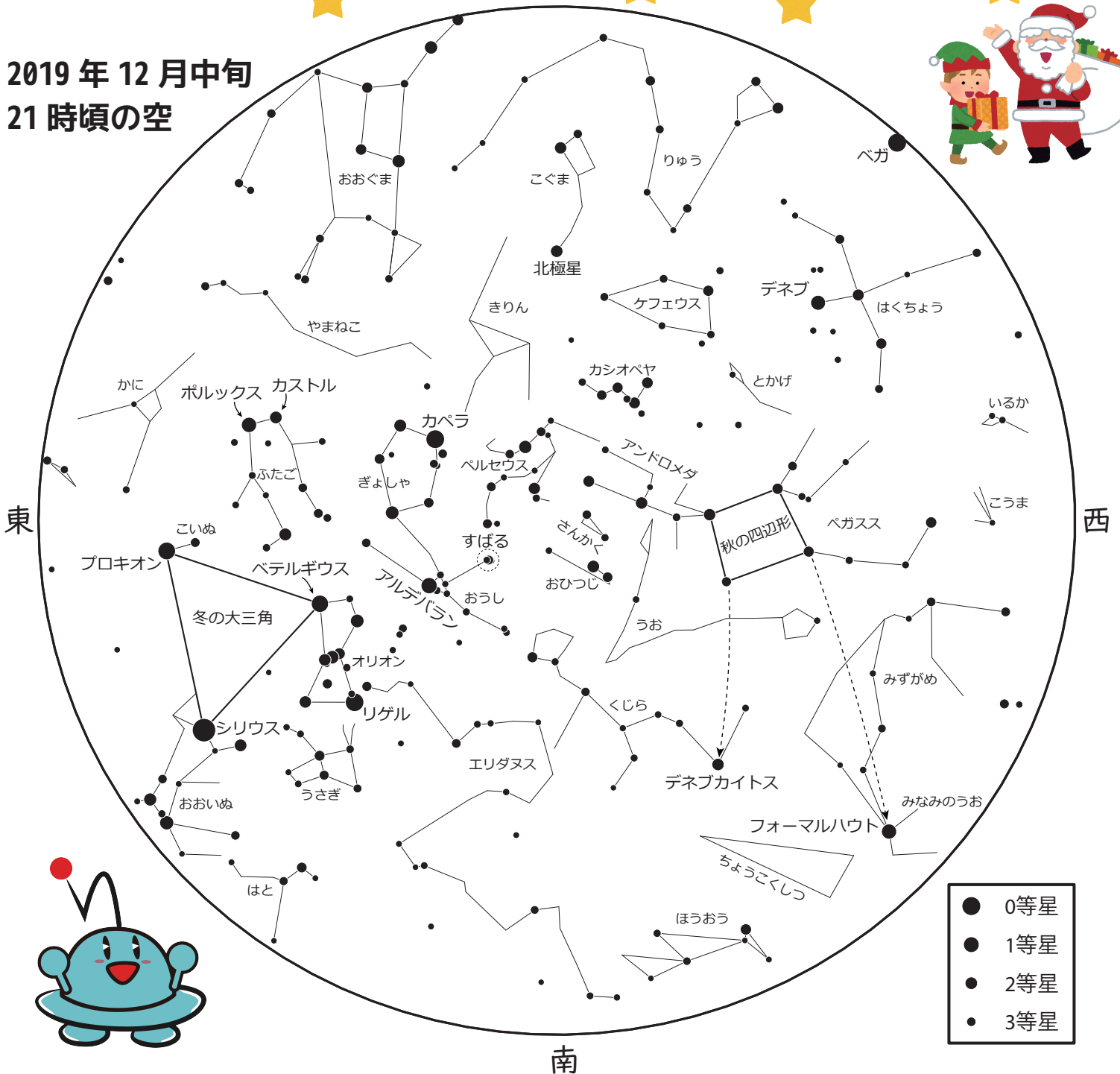




12月の星空案内

北

A cartoon illustration of Santa Claus and an elf. Santa is on the right, wearing his traditional red suit with white trim and a white beard, carrying a large white sack of gifts. An elf on the left, wearing a green suit and a pointed hat, is carrying a wrapped gift. They are both smiling and appear to be walking towards the left.



12月に入り、冬の星座たちが見つけやすくなりました。頭上にはアルデバラン（おうし座）やカペラ（ぎょしゃ座）が輝き、肉眼でも確認しやすいプレアデス星団（すばる）も見つけることができます。東寄りの空には冬の代名詞ともいうべきオリオン座が位置し、赤っぽく光るベテルギウスと白っぽく光るリゲルの輝きが目を惹くことでしょう。冬の大三角は先のベテルギウスに加え、シリウス（おおいぬ座）とプロキオン（こいぬ座）の3つを繋ぎ、形作ることができます。なおシリウスは1等星の約10倍もの明るさで（約-1.5等星）、全天で最も明るく見える恒星として有名です。

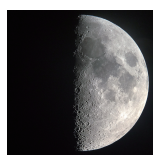
天体観望会のご予約はネットかお電話にて **【毎週土曜日開催 / 18 時～, 19 時～, 20 時～】**

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

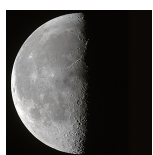
■ 12月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
4日



満月
12日



下弦
19日



新月
26日

12月の天体観望会で月が見える日時は？



12/7(土)・・・全ての回で観察可能



12/14(土)・・・20時過ぎに観察可能
※ただし、この日はふたご座流星群観望会

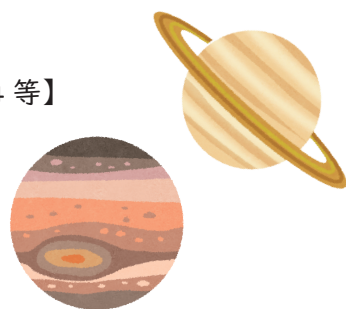
水星：12月上旬頃、夜明け前に東のごく低空で見える。【約-0.5等】

金星：日没後に西の低空で見え、年末に向かうほど高い高度で観察できる。【約-4等】

火星：夜明け前、東の低空で見える。【約1.5等】

木星：上旬頃は日没とともに金星の近くに見えるが、すぐに沈む。【約-2等】

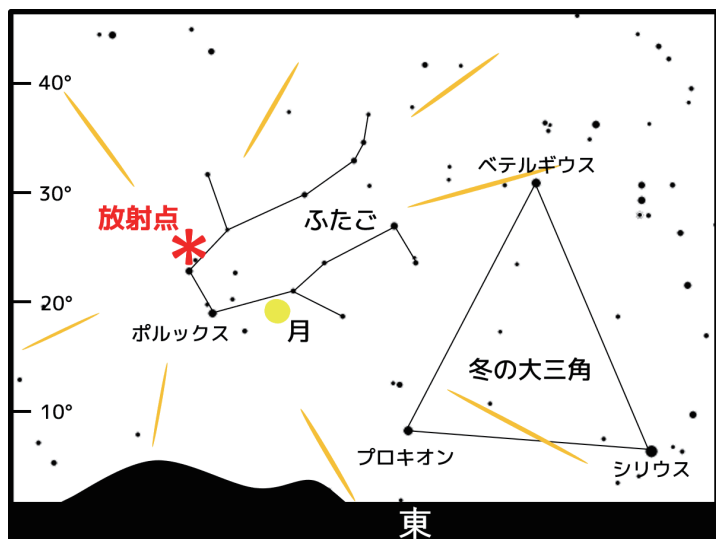
土星：日没とともに金星の近くに見える。12/11は金星と最接近。【約0.5等】



■ 注目の天文現象

【ふたご座流星群を見よう！】

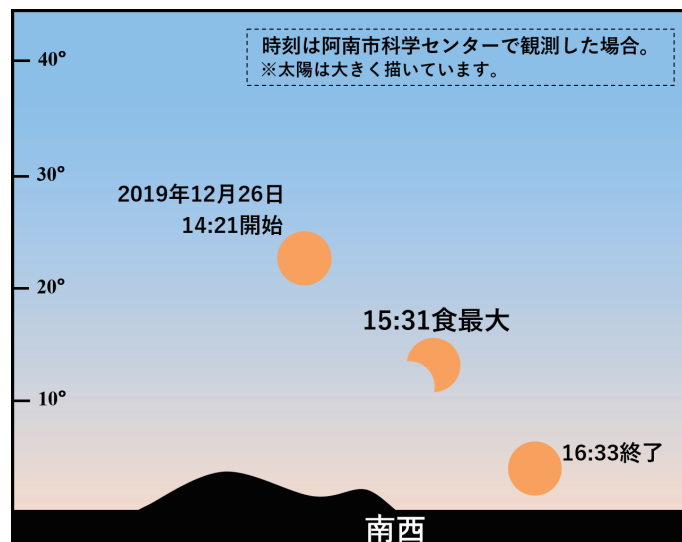
毎年、活発な出現をみせる「ふたご座流星群」は条件が良ければピーク時に1時間で約50個もの流星をみつけることができます。2019年のピークは12月15日午前4時と予報されているため、観察は14日の夜からはじめると良いでしょう。ただし、今年は放射点の近くに明るい月（月齢17.5）が位置しているため、観察条件はあまり良くありません。しかし、ふたご座流星群は明るい流星の数も多いため、火球クラスの流星が出現すれば、月明りのもとでも十分見えるでしょう。なお流星を観察するときはあまり放射点にとらわれず、なるべく空の開けた場所で空全体を見渡すように行うと良いです。



ふたご座流星群の放射点の位置。
(2019年12月14日20時30分頃の空)

【今年2回目の部分日食】

2019年は徳島で2回の部分日食が見られる当たり年となっています。1回目は1月6日に2～3割ほど欠ける部分日食がありました。しかしこのとき、徳島は雲が多く、さらに阿南市では霧雨の影響で観察条件があまり良くありませんでした。そして今年2回目となる部分日食が12月26日に起こります。今回も2～3割ほど太陽が欠けるため、今度こそ多くの徳島の方々に部分日食を観察して頂きたいものです。なお、徳島では来年6月21日にも部分日食が見られます。このとき太陽は4～5割ほど欠けるため、こちらも見逃せません。それ以降、徳島では2030年6月1日まで日食は起こりません。



2019年12月26日の部分日食の見え方。
(当日科学センターで観望会を実施予定!)